

クヌギ林とため池がつなぐ 国東半島・宇佐の農林水産循環 ～森の恵みしいたけの故郷～

**生物多様性
生態系の機能**
植物・動物
貝類・昆虫類
魚類・両生類・鳥類

保水・利水機能
湧水の維持
水質の浄化
農業用水の供給

原木乾しいたけ

**知識システム
適応技術**
ため池の適切な管理
伝統的な生産技術
(シチトウイ)

**文化、価値観
社会組織**
六郷満山文化
体験型観光

修正鬼会
(国指定重要無形民俗文化財)

ため池

水田農業
水稻・シチトウイ

原木しいたけ

**優れた景観
土地・水資源管理**
瀬戸内海国立公園
ため池群・棚田

**食料・生計
の保障**
水稻・原木しいたけ

白旗田原神社のどぶろく祭り
(収穫感謝祭)

伝統的文化資源として維持・管理
都市と農村の交流促進
地域ブランド力の強化



大分県応援団「鳥」「めじろん」

オオイタサンショウウオ
(絶滅危惧種)

シチトウイの豊表
(国内唯一)

田染荘
(中世の荘園)

原木しいたけ



(2013年5月30日認定) 国東半島宇佐地域世界農業遺産の特徴

FAOによる 世界農業遺産の 認定基準

食料及び生計の保障

クヌギ林と森林資源が食料を生み出すことが、食料安全保障に貢献しています。さらに、しいたけ栽培用の原木確保のためのクヌギ林が、ため池の水源をかん養しており、それによって、米、シチトウイ、原木乾しいたけ、伝統品種のみどり豆など、多様な農林水産物が生産されています。

生物多様性及び生態系機能

広葉樹林のクヌギ林が維持され、コバノイクビゴケ（植物）、アカザ、クボハゼ（魚類）など固有種の生息が確認されるほか、オオサンショウウオ（両生類、特別天然記念物）や生きた化石と呼ばれるカブトガニの貴重な生息地となっています。

文化、価値観及び社会組織（農文化）

独創的な神仏習合の「六郷満山文化」の下で、農業に関連した宗教的、精神的な信仰が深く根ざしており、修正鬼会、御田植祭など農業に関連する特徴的な祭礼が今なお伝えられています。

すばらしい景観及び土地・水管理の特徴

クヌギ林とため池、棚田と畑が農村集落と融合し、半島の丘陵から海岸に接続する土地利用のモザイクをなす優れた景観であり、特に14世紀の耕地・村落の形態を今に残す田染荘は、貴重な歴史資源であるとともに優れた文化的景観です。

知識システム及び適応技術

クヌギ林を持続的に活用するしいたけの原木栽培技術と、複数のため池群を連携させるかんがい技術が導入・継承されており、水と土地が不足する地域の状況に適応する独創的な知識システムとして認められます。

世界農業遺産(GIAHS)とは

世界農業遺産 (Globally Important Agricultural Heritage Systems: GIAHS(ジアス)) は、社会や環境に適応しながら何世紀にもわたり発達し、形づくられてきた農業上の土地利用、伝統的な農業とそれに関わって育まれた文化、景観、生物多様性に富んだ、世界的に重要な地域を次世代へ継承することを目的として、2002年（平成14年）に国連食糧農業機関（FAO、本部：イタリア・ローマ）が創設した制度です。2013年6月現在、世界11か国、25地域が認定されています。日本では、2011年に新潟県佐渡地域、石川県能登地域が認定されており、今回、静岡県掛川地域、熊本県阿蘇地域、大分県国東半島・宇佐地域の3地域が新たに認定されました。

世界農業遺産 Q&A

Q ユネスコ世界遺産（文化遺産）との違いは？

A ユネスコ世界遺産（文化遺産）が、遺跡や歴史的建造物などの「不動産」を登録、保護するのに対し、世界農業遺産は、次世代に継承すべき伝統的な農業の「システム」を認定し、その保全と持続的な利用を図るものです。

Q 認定されると農法などに制限が加えられるの？

A 世界農業遺産には農法などの制限はありませんが、生物多様性を著しく減少させないことが重要です。環境保全型農業は世界の大きな流れで、消費者のニーズもあり、その農産物には、世界農業遺産による大きな付加価値が期待されています。

Q 認定されたら、何をすればいいの？

A 認定を契機に豊かな地域農林水産業を発展させるためのアクションプランを着実に実行するとともに、国内や海外の認定地域と連携を強化し、日本と世界のモデルとなる取組を推進します。

国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会